## DOKI・DOKIのおもてなし 高校生が英語で観光ボランティアガイド

内子高校の２年生20人は１月29日、愛媛大学の外国人留学生を迎えて、町並みなどを英語で案内しました。この取り組みは英語学習の一環で、昨年６月から内子町外国語ガイドの会と協力して準備を進めてきました。

上我邸の案内をした城戸美結さんは「緊張したけれど苦手だった英語を少し好きになった。地域のことも学べていい経験ができた」と振り返りました。

町並みを歩きながら見どころを紹介する高校生たち

## かわいらしい人形がお出迎え―― 善めいさんが陶人形を長田地区に寄贈

陶人形作家・善めいさんから長田地区のまめなぎ会に寄贈された「夢わらべ人形」を沿道に設置する「山里ロード開設記念式」（まめなぎ会主催、太田利栄会長）が２月５日、お山の学校ながたで開かれました。式では寄贈された30体の人形が披露された他、記念碑の除幕が行われました。太田会長は「やさしい顔の人形がお出迎えするので、ぜひ長田地区へ足を運んで」と呼び掛けました。

夢わらべ人形を設置する善めいさん（左）

## 職人の手が魅せる「ふるさとＣＭ」 放送回数100回の愛媛県知事賞を受賞

「ふるさとCM大賞えひめ2017」（愛媛朝日テレビ主催）の審査会が２月12日、松山市総合コミュニティセンターで開かれました。内子町からは有志が、和紙職人などの手に注目した作品・『手』で参加。「作業で汚れた手や武骨な手から、伝統工芸の魅力が伝わってくる」と評価され、CM放送回数100回の愛媛県知事賞を受賞しました。作品は４～９月の間に、愛媛朝日テレビで放送されます。

中村時広愛媛県知事と有志の皆さんで記念撮影

## シイタケ、ホントに生えるかな 立川小で「シイタケ植菌教室」

森林に親しむ心を育もうと「シイタケ植菌教室」（内子町林業研究グループ主催）が２月17日、立川小学校で開かれました。教室ではまず、木の種類や山の持つ機能などを学んだ後、植菌作業に移りました。児童は内子町産のクヌギの木にドリルで穴を空け、一つ一つ丁寧に菌を植えていました。小田星華さん（立川小６）は「シイタケが好きなので、収穫が待ち遠しい」と笑顔でした。

金づちでクヌギに菌を植える児童たち

1,500点の商品が積載できる「とくし丸」

## 「内子町の皆さん、はじめまして」 移動スーパーとくし丸です

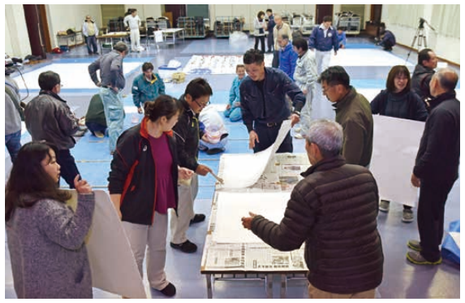
２月末から中田渡・田渡・臼杵の３地区で販売を開始する移動スーパー「とくし丸」（㈱セブンスター）が２月17日、内子町役場本庁を訪れました。

とくし丸は週２回、買い物に行くのが難しい高齢者など、要望があった１軒１軒を訪問して生鮮食品や日用品などを販売。利用者と定期的に顔を合わせて会話するので、地域の高齢者の見守り役としても期待されています。

切り取った竹を粉砕機で細かく砕く作業

## 昔、見ていた眺望をもう一度―― 自治会の垣根を越えて展望台整備

八日市自治会が行っている「天神山公園化事業」（玉井秀文自治会長）が２月19日、八日市地区の天神社で行われました。かつての眺望を取り戻そうと内子自治センター管内の住民も協力。約70人が参加し、チェーンソーなどで視界を遮っていた竹を４時間かけて切り除きました。玉井会長は「大勢の参加に感謝。まだ竹は残っているので、今後も続けたい」と話しました。



試行錯誤しながらの制作は５月まで続く

## 五十崎の伝統と技術を絶やさぬために、 有志を募って出世凧づくりに挑戦

いかざき大凧合戦実行委員会（髙倉眞一実行委員長）の出世凧づくりが２月20・21の両日、町民会館で行われました。これまで出世凧を作っていた名人・奥島重利さんが高齢のため引退。その技術と伝統を守ろうと、実行委員と有志が制作を引き継ぎました。指揮を執る上田光明さんは「やめるという選択肢はなかった。いい出世凧ができるよう頑張りたい」と力を込めました。

軽快な三味線の音が金婚式に華を添える

## 苦楽を共にした50年を祝って―― 「金婚祝賀会」を開催

「金婚祝賀会」（内子町社会福祉協議会４分会主催）が２月20日、内子自治センターで開かれました。対象の内子・五城・立川・満穂分会から10組が参加。来賓の皆さんから「長い人生を夫婦で乗り越えてきた皆さんは、私たちの目標。これからも元気で仲良く頑張ってほしい」と祝辞があった他、求道三絃由謡会による津軽三味線の演奏などがあり、夫婦で歩んできた50年を共に祝いました。